

第 86 回 ITER 機構職員募集説明会での Q&A

1. 日時・場所

平成 27 年 11 月 24 日（火）～26 日（木）

名古屋大学東山キャンパス プラズマ・核融合学会第 32 回年会（展示ブース）

2. 来訪者：70 名程度

3. 説明概要：プラズマ・核融合学会の第 32 回年会の展示会場において、ITER に関するポスターを展示し、来訪者に ITER に関する資料を配布して ITER 計画について説明及び ITER 機構職員募集を行った。

（ITER 統合支援グループ 大原、ITER 計画管理グループ 林）

4. 主な Q&A

Q：ITER 計画とは何ですか？

A：ITER 計画は、平和目的の核融合エネルギーが利用可能であることを実証するため、人類初の核融合実験炉を建設・運転しようとする大型国際協力プロジェクトです。ITER 計画は、2020 年ころの運転開始を目指し、日本・欧州連合(EU)・ロシア・米国・韓国・中国・インドの 7 極により進められています。ITER 計画は、国際協力における前例のない挑戦です。この国際協力は 1985 年ジュネーブでの米ソ(当時)首脳会談をきっかけとして開始されました。

Q：ITER サイトはどこにありますか？

A：ITER の建設サイトは、国際的な観光地としてよく知られた南仏プロヴァンス地方にあります。サンポール・レ・デュランスという市に有り、フランス原子力庁カダラッシュ研究センターに隣接しています。最寄りの国際空港はマルセイユ空港となります。マルセイユからカダラッシュまでは 70km ほどあり、車で約 1 時間かかります。

Q：ITER で発電を行うのですか？

A：ITER は実験炉ですので、発電は行いません。実験炉で核融合に必要な基礎技術の確認を行い、次のステップ（原型炉・実証炉）に向かうための知見を得ることを目標としています。

Q：ITER 機構では、何人くらい日本人が働いていますか？

A：日本人は、ITER 機構職員合計 638 人のうち、専門職員（経験のある技術者・研究者）19 人、支援職員（秘書、CAD オペレーター等）6 人の計 25 人が働いています。（2015 年 10 月末）

Q：ITER 機構への日本派遣者が減っている理由は何ですか？

A：現在、25 名（11 月現在）が IO で働いています。期限満了により日本に帰国した専門職が数人います。今後、日本から派遣する職員数を増やす努力を継続的に行っていきます。

Q：ITER では、現在どのような職員を募集していますか？

A：11月締め切りの募集ポストは、専門職では主にエンジニアや管理職(セクションリーダー、部門長)、一般職では秘書や調達関連のポストが合計で16件ありました。

Q：ITER サイトの建設状況、ITER 計画の進捗はどのようになっていますか？

A：ITER は、2020年頃に最初のプラズマを着火することを目指して、装置建設が進んでいます。現時点で完成しているのは、ポロイダル磁場(PF)コイル建屋、クライオスタット作業場と本部ビルです。トカマク建屋、組立建屋等については現在建設中で、トカマク建屋については、基礎工事と地下2階の工事が完了し、地下1階の工事が進んでおり、外壁の一部が完成し、さらに外壁の工事作業が継続されています。この後、順次地下から上の階(最上階は5階)まで、フロア毎に建設が進んでいく予定です。組立建屋の建設では、地上で組み立てた鉄骨製の屋根を指定位置に持ち上げる作業が完了しました。一方、各参加7極ではITER協定の合意に従って機器の製作が進んでいます。例えば日本では、トロイダル磁場(TF)コイル用導体の製作を完了して、中心ソレノイドコイル用導体の製作を進めています。また、TFコイル実機1号機の巻線および構造物の製作が進んでいます。中性粒子入射加熱装置(NB)の実機試験施設用電源の製作はほぼ完了し、第1陣を載せた貨物船がヨーロッパに向かって航行中です。



Q：原子力機構の登録制度とはどんなものですか？どのようなメリットがありますか？

A：原子力機構では、募集情報提供のための登録制度を設けており、登録者の方には最新募集情報やITER Newslinesの配信、ネイティブによる応募書類の英文添削、面接の支援など、全面的なサポートを行っております。面接支援の一環としては、模擬面接ビデオの閲覧、面接英語のトレーニングなど役立つ支援を実施しています。ぜひご活用ください。登録料は一切かかりません。配信不要であればお電話、メールでその旨ご連絡いただければ、即解約もできます。

Q：ITER 後の展望は？

A：ITER 計画は現在建設段階ですが、これと並行して原型炉に向けた研究開発を、JT-60SAを含むBA計画により実施している。ITER やJT-60SAのR&D、新たな技術的・科学的成果を基盤として原型炉・発電炉を早期に実現できるよう多方面から推進しています。



展示ブースの様子